

# 外部資金の獲得困難 / 教員減に着手

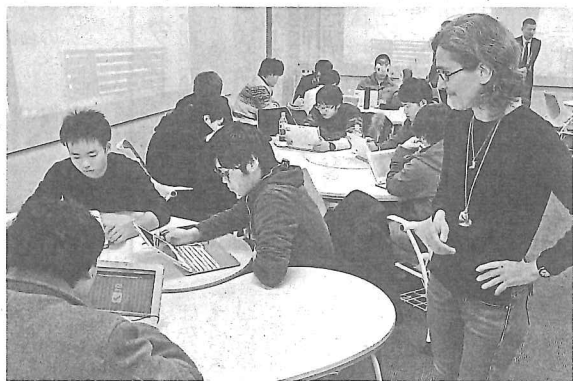
# 北大以外も影響深刻

## 国立大交付金削減

## 大学格差拡大に懸念

北大で人件費削減案が浮上する要因になった国の運営費交付金の削減問題が、道内の他の国立大にも影響を及ぼしている。各大学とも削減率は2004年度比で10〜20%に達した上、北大よりも外部資金の獲得が難しく、交付金への依存度が高いため、ダメージはより深刻だ。すでに教員削減に着手した大学もあり、専門家は「大学間格差が拡大しかねない」と指摘する。(報道センター 石井努)

「交付金削減は体内の血を抜かれる思い」。小樽商大企画戦略課の担当者も話す。同大の16年度の運営費交付金は12億3200万円と道内7国立大で最少。総収入の43%を占める交付金は、制度が始まった04年度比で18・1%減った。企業との共同研究で獲得した外部資金と付属病院収入が総収入のほぼ半分を占める北大に対し、産学連携などによる研究や寄付による収入は1・2%。理系大学と違い、共同研究による外部資金は集めにくい。支出抑制のため、小樽商大は13年度から定年退職した教員の後任を採用しない、「不補充」に着手。22年度までの10年間で教員を17人減らし、111人にする方針で「ギリギリまでスリム化を



アクティブ・ラーニングを取り入れた、小樽商大の英語の授業。文科省の重点支援枠では高い評価を得たが、増収効果は限定的だ

大学名	16年度の交付額	総収入に占める割合(%)	04年度比の削減率(%)
北大	362億 2700万円	37.6	19.2
道教育大	67億 5200万円	67	10.2
旭川大	51億 8700万円	19.7	15.0
帯広大	26億 9000万円	60.2	11.2
室蘭大	26億 1400万円	49.5	20.8
北見工大	22億 5200万円	61	18.9
小樽商大	12億 3200万円	43.1	18.1
7大学合計	569億 5600万円	—	17.5

道内7国立大の運営費交付金の2016年度交付額(予算額)と04年度比の削減率

道内7国立大への国の交付金は16年度、計569億5600万円、04年度より17・5%減った。北大と同様、付属病院の収入が多い旭川医大を除き、各大学とも交付金への依存度は高く、影響は大きい。北見工大も本年度、定年退職した教員8人の専門分野の後任を不補充にした。一方、バイオ食品研究など企業の関心の高い分野に力を入れて産学連携を進める狙いで、この分野に精通した若手教員6人を新規採用した。

教員が591人と北大に次いで多く、収入の67%を交付金で賄う道教育大は教員削減に踏み切れない。文部科学省の教職課程認定基準によって、学生が科目を履修するために必要な教員数が定められているからだ。収入減の穴埋めのため、15年度から卒業証明書などの発行を有料化した。「効果は微々たるもの。でも教員を減らせないと、できる範囲で収入を上げるしかない」と話す。

文科省は本年度から、各大学を競わせ、取り組みの内容次第で交付金を手厚く配分する「重点支援枠」を導入した。各大学は特色づくりに懸命だ。小樽商大は学生が主体的に授業に参加するアクティブ・ラーニングを深化させる授業を始め、帯広畜産大は世界トップクラスの大学と共同研究を推進するとい

ななどを打ち出した。いずれも高評価を得て、増収にもつながった。ただ効果は限定的。文科省は重点支援枠による各大学への交付額を明らかにしていないが、多くても数百万円程度で、財政の大きな改善は期待できない。

国立大学改革に詳しい北大の姉崎洋一名誉教授は「今後は外部資金をこれら大学と、とれない大学で体力差が拡大するだろう。文科省は競争させるだけでなく、大学の事情に応じた交付金の配分方法を考える必要がある」と話している。



## 今日のテーマ 18年卒就活生への応援座談会

# 自身見つめ直し計画的に

2018年春に卒業する大学生らの就職活動(就活)が本格化する時期を迎えている。企業側の採用活動は3月から会社説明会などの広報、6月から面接・試験などの選考がそれぞれ解禁となり、この春に卒業する学生が経験してきた日程と同じだ。彼らはどのように就活に取り組んできたのだろうか。今回は18年卒就活生への応援特集として実情の一端を知るために、昨年6月に就活を終えた小樽商科大学の伊藤峻之さん、北海学園大学の長尾徳之さん、北星学園大学の目黒亜依さん、北海道大学の森永華子さんの4人を招き、それぞれの歩みを振り返ってもらった。

(道新夢さぼ取材班 青山実、司会も)

### 【就活の方針】

— 就活の方針と始めた時期、3年生の1月ごろに取り組んでいたことから教えてください。

伊藤 私は道内で働けることと自分が得意な会計関係の知識を生かせることを条件に3年生の9月から始めました。1月ごろでしたら業界研究などを積極的に始めたところです。

長尾 第1志望の企業の面接が4年生の6月でしたので、それに向けてたくさん経験を積んでいこうと考えて3年生の夏から動き始めました。1月はインターンシップを通じて企業の研究などをしていました。

目黒 行きたい業界はある程度絞っていましたが、まずは早く始めることと興味のあるなしにかかわらず広く見ることを心掛け、3年生の11月から準備を始めました。1月は大学の試験があったこともあり、そちらを優先していました。

森永 私も業界や業種を幅広く見ていくことと、就活はいろいろな人と出会う良い機会と前向きに考えて進めました。体育会系の部活をしていたので10月ごろから動き始め、1月は自己分析のほか、エントリーシートの準備などに充てていました。

### 【自己分析】

— 自己分析はどのように行いましたか。

森永 自己分析は就活が一番大事な部分で、エントリーシートや面接など全てに通じるものだと思います。私は先輩から参考をもらい、その中のワーク

### 座談会の出席者(カッコ内は内定先業界)

- 伊藤 峻之さん 小樽商科大学4年 (金融関係)
- 長尾徳之さん 北海学園大学4年 (航空関係)
- 目黒亜依さん 北星学園大学4年 (損保関係)
- 森永華子さん 北海道大学4年 (自動車関係)



就活を振り返り、取り組みのポイントなどを話し合った座談会。右から伊藤峻之さん、長尾徳之さん、目黒亜依さん、森永華子さん

シートに生い立ちや楽しかったこと、挫折したことなどを記入し、それを手始めに就活中は5回書き直して内容を深めました。

長尾 私は自己分析用のノートを用意して自分の長所や短所、頑張ってきたことなどを書きとめ、内定を受けるまで何度も書き足していました。

目黒 私も自分の性格やこれまでの人生のほか、自分としては譲れないものを整理して就活ノートに書いていきました。企業を絞る段階で迷ったときには自己分析の箇所を繰り返し読み、目指すものは何かを常に確認する指標のように使ってい

ました。伊藤 自己分析では友達の評価も参考にしました。自分では短所のように思っていた性格も友達から見方を変えて肯定的にとらえる視点も教わり、とても役に立ちました。

### 【業界・企業研究】

— 業界や企業の研究はどのように進めましたか。

長尾 業界については1日限りのインターンシップを幾つも受けることと合同企業説明会で調べ、企業については個別説明会と長めのインターンシップで研究をしていきました。森永 私も業界についてはイ

## 自己分析は大事 ■インターンシップ活用を ■面接は会話楽しもう

**就職活動** 広い意味では1年生から行われる大学の就活プログラムなども含まれるが、直接的には学生が卒業の前年あたりから企業選びのために行う学内外の活動。取り組みとして自己分析やインターンシップ、エントリーシートの提出、面接などがある。来春(2018年)卒業する学生への企業側の採用活動は、経団連の方針などで今年3月から広報(会社説明会)解禁、6月から選考(面接や試験)解禁となっているが、前倒しで動いている企業も相当数あるとみられる。

**インターンシップ** 企業や官公庁などで学生が

就業体験できる制度。職業選択や適性の見極めなどが目的で、無報酬のケースが多くアルバイトとは異なる。中には採用活動の一環と見受けられるケースもあり、期間は1日限りから10日ほどのものまでさまざま。

**エントリーシート** 企業が採用活動の一環として提出を課す独自の応募用紙。応募者が多い企業にとっては書式を統一することで内容の比較を容易にする利点がある。質問は志望動機や自己評価、将来ビジョンなど多岐で、郵送またはウェブで提出する。応募者の選別や面接の資料に使われることもある。

ンターンシップで研究し、企業の方は3月から始まった合同説明会や個別説明会で違いを調べていきました。女性が一生働ける環境があるかどうかを重視していたので、そこをポイントに見ていきました。

目黒 私は合同説明会などで気になる企業を見つけ、後でその企業の業界を見ていくようにしました。競合他社についても調べましたが、これは企業を絞り込むときに、なぜその会社でなければいけないのかという理由を明確にしていくときに役に立ちました。

伊藤 私も皆さんとほぼ同じですが、合同企業説明会などで会場に来ている人事の人たちにも注目していました。中には実際に生き生きとしゃべりながら話しかけてくれた企業もありました。

### 【エントリーシート】

— エントリーシートの対策は。

森永 2月ごろまでに400字から千字くらいのひな型を作り、それを組み合わせることで指定の字数にあったものをつくりました。内容は学生時代に頑張ったことやリーダーシップを発揮して成果を上げたことなどです。

長尾 私も自己PRなどの文章をたくさん作って、それを組み合わせることで企業の求める形で提出していました。

目黒 私は就活ノートにインターンシップなどの際に聞かれたことや傾倒していることをまとめ、エントリーシートを出すときにノートを見返しながら書くようにしていました。伊藤 大学で先輩たちが就活を支援する活動をしていて、学

生時代に頑張ったことをテーマにして400字でまとめたものを添削してもらい、具体的に書き込む箇所などのアドバイスももらうこともありました。

### 【面接】

— 面接で注意すべきことは。

伊藤 気を付けたことは機械的にならず、自分の言葉でしっかり話すことでした。目線も並んで見ようとしていました。長尾 私も機械的にならない、つくりすぎない、事前に準備しすぎないようにしました。緊張しないように友達と話している感じで、でも言葉遣いには十分注意し、笑顔にも気を使いました。

目黒 先輩から以前、「面接で大事なのは相手の人がこの学生と一緒に働きたいと思ってくれるかどうかだよ」と言われたことがありました。私もそう思ってもらえるように、面接されるというよりは会話をしようという思いで受けるようにしていました。

森永 第一印象が大事だと思うのですが、まずは見た目の清潔感と元氣よく笑顔で臨むこと、あとは目を見て簡潔に話すことを意識しました。面接で聞かれたことで言葉が足りなかったかなと思うときは、後で整理し直して次の機会に役立てました。

### 【就活の必須ポイント】

— 全体を通じて就活に欠かせない点の一つ挙げてください。

目黒 広く企業を見ることです。予想外の出会いというものがあります。森永 フットワークを軽くしていろいろな人の話を聞くこと

が大事です。長尾 改善の努力を続けることです。エントリーシートや面接で失敗しても、練り直さずとてより良い形が生まれてきます。

伊藤 自分に素直になることです。何事も周りの意見に耳は傾けますが、最終的には自分の気持ちに正直に従うとよいでしょう。

### 【就活の意義】

— 最後に就職先を得たこと以外で就活の意義について感じていることをお聞かせください。

伊藤 就活は自分自身を見つめ直す貴重な時間でした。自分のことをこれだけ振り返ったのは初めての経験で、22年間の人生の集大成だったとも言えます。

森永 就活では自分の弱さだけでなく、悲しい、苦しい思い出にもきちんと向き合うことになり、非常に有意義でした。就活をしていると、他の大学の人たちとも友達になる機会も多く、視野が広がりました。

目黒 普段だったら入ることができない企業に足を踏み入れ、いろいろな社員の方々の話を聞くことができました。10年後にはこんな人になりたいと思うような人にも出会い、将来のことをじっくりと考えることができて、とても楽しいものでした。

長尾 就活をする前は、街の中を歩いていてもただ歩くだけでしたが、就活を経験してみるといろいろな看板や建物が目に入るようになりましたね。この会社があるから自分の生活が支えられているんだなという感じで、社会の見方が変わりました。



# 小樽の若者つなぐ場に

## 団体設立・来月初イベント

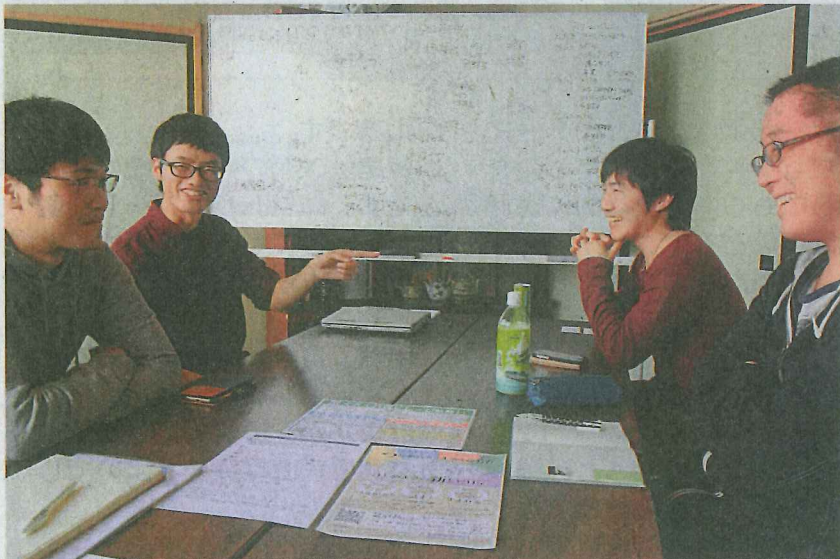
### 北大院・峰尾さん

小樽に住む若者が学校や職場の壁を越えて交流しようと、小樽市潮見台在住の北大大学院修十一年の峰尾光人さん(24)が、10〜20代を対象にした若者団体「オタル若者ビレッジ」を設立した。2月18日に初のイベント「オタル若者大作戦」を小樽市生涯学習プラザ・レピオで開き、若者の視点で町づくりの方策を話し合う。(西出真一朗)

峰尾さんはこれまで、小樽運河の清掃活動や冬のイベント「小樽雪あかりの路」のオブジェ制作のボランティアを行ってきた。その際、市民から度々「君、小樽商大生じゃないんだ。珍しいね」と言われ、商大生以外の若者が町づくりに関わる例が少ないことを実感した。

「小樽には町おこしやイベントを行う団体があるが、同世代が少なく若者は敷居が高い」とも感じた。峰尾さんは「商大生でな

くてもまちに関わりたい若者は多いはず。若者ビレッジ



2月18日の「オタル若者大作戦」に向けて打ち合わせをする峰尾光人さん(左から2人目)らオタル若者ビレッジのメンバー

じや若者大作戦を、小樽に住みながらも交流の少ない小樽の10〜20代をつなぐ場にした」と話している。若者大作戦は午後1時から。無料。定員40人で事前申し込みが必要。申し込み、問い合わせは電子メール otaruwakamonovillage@gmail.com。